

平成 26 年度の主な事業報告

(1/4)

社会福祉法人 希望の杜福祉会

社会福祉事業

法人全体の事業報告：具体的課題と取り組み状況

障がい者の高齢化や生活力の低下、地域の福祉問題について取り組む体制作り

- ・将来構想委員会を設置し、法人内の利用者の現状を認識できたが、解決策に関しては今後の課題となった。
- ・地域福祉の問題については、関係機関・者との協議が必要である。

利用者の地域での生活支援のための中長期的な事業計画

- ・将来構想委員会は設置したが、実動には移れなかった。委員会の活性化と、具体的取り組みが必要である。

家族会や当事者会の育成や、職員と利用者・家族間の意思の疎通を図るための各種通信の発行

- ・一部での実施にとどまったため、具体的取り組みが必要である。

人材育成のための研修

- ・先進事業所研修、新入職員研修等一部しか実施できなかった。
- ・社会人研修や“資格取得”への研修体制作り、管理者研修等が今後の課題である。
- ・“法人の理念”の再確認や実現のための研修体制作りが急務である。

経営改善委員会

- ・実動にいたらなかった。今後の具体的取り組みが必要である。
- ・職員、特に管理者の経営についての理解と、理事会の積極的行動が必要である。

けやき共同作業所(就労継続支援B型)

けやき共同作業所：市委託配食弁当、宅配弁当、惣菜等製造販売、輪ゴムの箱詰め等下請

- ・けやき鹿島の宅配弁当の一部をけやき共同作業所で引き継いだため弁当の注文数は増えた。
- ・臨時に箱折作業を受けるなど、下請け作業の充実に取り組んだ。
- ・面接会への同行や就業支援センターとの連携による支援を行い、4名が一般就労をした。
- ・本人の希望によりゴム作業から弁当作業への異動を行うなど、利用者ごとに適したサービスの提供を心がけた。

工房けやき(就労継続支援B型)・けやき茶屋(出張所)

工房けやき：豆腐等製造販売、惣菜の販売

- ・配達、ご近所販売など顧客の高齢化が進み、売り上げは減ってきている。
- ・製造体制を見直し、品薄だった油揚げを常に店頭に置くことができるようになった。
- ・個別支援計画に基づく利用者個人の能力に応じた作業の提供を行った。

けやき茶屋：豆腐販売、惣菜の販売

- ・職員が少ないこともあり、惣菜の品数を増やしたり、新商品を開発したりすることができなかった。
- ・個別支援計画に基づく利用者個人の能力に応じた作業の提供を行った。

平成 26 年度の主な事業報告

(2/4)

社会福祉法人 希望の杜福祉会

社会福祉事業

あとりえ北山・杜のどーなつ・ふれんず北山(多機能型事業所/就労継続支援B型・同左・生活訓練)

あとりえ北山：菓子・惣菜・弁当の製造販売、古紙回収、下請事業等

- ・月目標売上げに設定していた155万円を超える155.4万円の売上げを達成できた。
- ・イベントなどに積極的に参加して売上の確保ができた。
- ・平日の売上を伸ばすとともに、菓子類等の商品数を増やしていく必要がある。
- ・個別支援に計画に基づき、一人ひとりに応じた作業指導及び支援を行った。

杜のどーなつ：菓子製造販売、店舗販売

- ・ここ数年、増加傾向にあった地方発送の顧客が減少してしまった。
- ・商品のリニューアル時に、配達先のお客様にチラシを送り、飽きが来ないように努めた。
- ・店舗販売の伸び悩みが続いており、今後の課題である。
- ・個別支援に計画に基づき、一人ひとりに応じた作業指導及び支援を行った。
- ・個人の意見を尊重した個別支援計画を作成し、利用者一人ひとりに応じた作業の提供ができた。
- ・当事者会での話し合い等を通し、利用者同士の交流を深めた。

ふれんず北山：生活支援、体力増進、社会資源利用、創作活動、教養講座

- ・個別支援計画の作成により無理のない支援を行うことができた。
- ・生活支援、体力増進、社会資源利用、創作活動、教養講座等といったの生活訓練プログラムを通し、利用者のスキル向上に努めた。
- ・個人面接随時相談により個々の悩みを聞き、利用者とのコミュニケーションが取れた。

ふたばの里(就労継続支援B型)

事業内容：菓子製造販売、手工芸品の製造販売、古紙の回収、下請事業等

- ・下請け作業が定期的に入るようになり、個々の作業が固定化し作業効率も上がった。
- ・古紙回収作業では、PR効果もあり個人からの依頼が増えた。
- ・缶バッジ作業は、不定期ではあるがファクトリーや個人からの受注注文有。
- ・小物製作は、売れる商品開発に努めてきた。
- ・個別支援計画に基づく利用者個人の能力に応じた支援を提供した。
- ・余暇活動憩いの場所としての役割も担い利用者の無理のない通所につなげていけるよう努めた。
- ・計画相談が入ることにより関係者との連携がより密になり、本人にあったサービスの提供が可能になった。

グリーンアップルズホーム(共同生活援助) 定員 24名 入居者 23名

きぼうの家：地域生活サポート、食事提供、服薬管理、日常支援、通院同行等

①世話人不足への対応

- ・これまで世話人一人で1か所を見ていたが、なかなか世話人の応募が無い為、暫定的な対応として、世話人一人で2か所のホームを見ることにした。2か所を見る時には、1時間長く勤務し対応。

②金銭管理サービスの終了に伴う支援内容の変更

- ・希望の杜福祉会の方針として、金銭管理サービスの実施は終了となった。その為、社会福祉協議会の日常生活自立支援事業やNPO法人そよ風ネットいわきの金銭管理サービス、若しくは保護者による管理等へ、支援の移行に取り組み、居室へ鍵を取り付けた。しかし、通帳や印鑑等の預かりや出納は外部機関となったが、現金管理の支援の必要性は残ることから、新たに現金の管理規程を設け契約を結び支援していく。3月末現在では、3名の方を残し通帳等管理の移行をした。

③入居者交流行事の実施

- ・今年は、毎年行っている冬の忘年会の他に、夏にバーベキューを実施し好評であった。

④その他

- ・1名が介護認定を受けテ「サ-ビス」の利用を開始し、1名が介護の認定調査を予定する等、高齢化が進んでいる。
- ・市の健康診断の受診を支援した。

平成 26 年度の主な事業報告

(3/4)

社会福祉法人 希望の杜福祉会

社会福祉事業

スペースけやき(地域活動支援センター)

事業内容：地域における活動支援、憩いの場の提供

- ・創作的活動や生産活動、地域活動、体力づくり、利用者間の交流といった基礎的な支援や、ウェルネス体操や当事者研究等の機能強化支援、退院者の地域生活支援や家族会活動の支援などを行った。
- ・利用者の状況に応じた対応として、地域活動支援センターから就労継続支援B型や生活訓練への移行を支援した。
- ・利用者の高齢化に応じた対応として、介護保険のデイサービスへとつなげた。
- ・相双地区からの避難者（浪江町、大熊町から3名）の受入

スペースけやき(指定一般・指定特定相談支援事業)

指定一般相談支援事業所 スペースけやき：地域移行支援、地域定着支援

- ・地域相談は取り組み件数が少なかった。
- ・上記の要因として以下の課題点が上げられる。
 - ①計画相談の整備に追われ、地域相談に人員を割くことができなかったこと。
 - ②原発事故による物件の高騰や消防法の規制強化により、退院後の受け皿となるグループホーム等の物件の整備が進まず、地域相談の問合せ自体が少なくなってしまうこと。
(そのため、市内の病院を退院し市外のグループホームへ入居するケースが多く見られた。)
 - ③域移行について協議する場がいわき市に無く、地域相談自体が活用されていない状況。3年間を通し、上記の課題解決に取り組んできたが、特に②はまだ解決できていない。

指定特定相談支援事業所 スペースけやき：サービス利用計画作成及びモニタリング

- ・計画作成の大幅な遅れを解消した。
- ・相談支援専門員2名体制で、一人あたり月20件を目標に取り組んだ。
- ・計画作成やモニタリング等のスケジュール管理体制を構築した。
- ・収入面では予算額に満たなかったが、昨対比では増収となった。
- ・計画相談のスケジュール管理体制を構築したことで、利用者に定期的・継続的に関わられるようになり、サービスの利用調整を必要に応じ実施し計画相談の質を高めるよう努めた。

結いの里(指定特定相談支援事業)

指定特定相談支援事業所 結いの里：サービス利用計画作成及びモニタリング

- ・いわき市に避難してきている相双地区の障がい者に対して、サービス利用計画の作成と、そのモニタリングを行った。

平成 26 年度の主な事業報告

(4/4)

社会福祉法人 希望の杜福祉会

公益事業

スペースけやき(委託相談支援事業) いわき市から委託を受ける

事業内容：一般相談、自立支援協議会への参加、研修の開催、認定調査等

- ・いわき市地域自立支援協議会における地域生活支援部会を担当し、下記の内容を協議した。
- ・障がい児者の移動支援の課題・・・調査協議の結果、市の移動支援でグループ支援も可能となった。
- ・短期入所の空きが無いという課題・・・次年度継続協議
- ・グループホーム検討会の開催・・・世話人育成の研修会を企画運営した。6/23開催、64名参加。
- ・いわき市に精神障がい者の地域移行を協議する場を作る必要性を提起・・・次年度より部会新設。
- ・研修会を開催。詳細は下記に記載。
- ・福祉サービスに結びつかない方々の支援において、一定の役割を果たした。
- ・研修会を開催し、以下の効果が得られた。
 - ①改正精神保健福祉法と、地域移行支援についての周知をした。
 - ②いわき市における地域移行支援の体制整備や、関係者が協議する場の必要性を共有化した。
 - ③H27年度いわき市自立支援協議会における地域移行支援部会の新設に繋げた。

結いの里(委託相談支援事業) 檜葉・広野・富岡・大熊・双葉・浪江町、川内村 から委託を受ける

事業内容：一般相談、双葉地方地域自立支援協議会への参加、認定調査等

- ・連絡会・くらし部会・つながる部会に参加。
- ・個別支援会議を開催し、本人にとってよりよい支援となるよう関係機関の調整を図った。
- ・研修会へ参加し、相談支援従事者としての資質の向上に努めた。
- ・関係機関が主催する会議へ出席し、圏域課題の協議を行ない、行政へ働きかけた。

福島県相談支援充実・強化事業(被災地における障がい福祉サービス基盤整備事業)

事業内容：被災した障がい者の相談支援等

- ・住民支援として、被災した障がい者を対象とした福祉サービス利用相談を実施した。
- ・支援者支援として、ニーズの整理や評価を目的とした訪問活動への同行等を実施した。
- ・相談支援体制整備として、双葉地方地域自立支援協議会や、連携を目的とした関係者会議への協力を行った。
- ・避難元町村へ対象者の支援経過報告を実施し、避難先でのサービス等利用状況を集約するなどの協力を行った。

憩いの家(地域支え合い体制作り助成事業) 定員9名(入居8 ショートステイ1) 入居者7名

事業内容：仮設のグループホーム、地域生活サポート、服薬・金銭管理、日常支援、通院同行等

- ・被災障がい者等に対して、地域における住まいの場を提供した。
- ・各種ルールの周知や情報提供、服薬管理等の生活支援、家族との連絡調整等を通し、地域生活の継続を支援した。
- ・清掃活動や各種イベントへの参加等を通し、地域との交流を図った。
- ・服薬管理や金銭管理への助言、必要な場合の通院同行等を通し、日常生活を支援した。
- ・世話人の協力を得ながら見守り支援、健康管理を行い、定期的なミーティングを通し、様々な問題をその都度解決した。
- ・入院した入居者に対し、面会、外出動向、外泊送迎等、病院との連絡調整も含み支援

のんびりハウス(地域支え合い体制作り助成事業)

事業内容：障がい児の預り事業

- ・平日の放課後及び長期休暇において双葉郡等から避難している障がい児を対象に、家族の就労支援及びレスパイトを目的とした預かり事業の実施。
- ・利用障がい児の家族に対する相談支援を実施。
- ・放課後及び長期休暇における利用児童の他サービス利用調整の実施。

収益事業

無し